

内藤家資料について

内藤家は、藤原秀郷を祖とする徳川家譜代の大家で、元禄 4 年(1691)に内藤清枚が高遠領三万三千石を拝領して以来、明治 4 年(1871)に高遠県が廃止されるまでの約 180 年間、8 代にわたって高遠領を治めました。代々の藩主は江戸城内では雁の間詰、江戸城各御門の警衛、火の番、奏者番等を勤めましたが、中でも高遠領知以前の当主、内藤重頼は大阪城代や京都所司代、若年寄等を歴任し、幕末の当主、内藤頼寧も天保 11 年(1840)に若年寄に就任するなど、幕府の要職に就いています。

内藤家資料は、譜代大名内藤家に関わる資料で、4 種類の文書群に分けられています。

(1)に属する 467 点の文書群は、旧高遠藩主内藤家に伝えられ、後に高遠町へ寄付された武家文書です。これらの中には、いわゆる大名家文書といわれる任官に関する宣旨・位記・口宣案、代々の名付書、領地目録・領地朱印状、将軍への季節毎の進物に対する歴代将軍黒印入りの御内書、また、藩主の代替わりに際して家中の藩士と領民へ触れ出される、藩主黒印入りの御添書等があります。また、内藤家の事蹟を纏めた『内藤十五世紀』(全 23 巻)や『世乗』(全 15 巻)、その他諸藩士の勤仕の記録、分限帳、藩の財政状況を示す証文類等、近世の高遠藩を知る為の基礎的資料が揃っています。

その他、内藤重頼が京都勤役中に受取った幕府老中衆からの諸連絡の書状や、武家伝奏から届いた朝廷諸事に関する諸連絡の書状、江戸城西の丸において右大將様(将軍世子)付きであった頃の、西の丸の人事に関する諸調査書等、幕府の中樞に係わる資料も含まれており、貴重で興味深いものです。

(2)に属する 138 点は、大正時代中期に中村弥六氏を中心に高遠藩史編纂の計画があり、広く関係者に呼び掛けて蒐集された資料を、井口純一郎氏等が筆写して、堅帳に纏めた物です。御達書から個人の家の記録まで、その種類は多岐にわたっています。藩史編纂のために必要とされる資料が選ばれて収録されつつある中で、この計画は中止となり、藩史が編纂されることはありませんでしたが、筆写資料として多くの貴重資料が遺されることにつながっています。

(3)は内藤家から追加寄贈を受けた 68 点の資料で、「内藤家々系図」や、「諸礼式席絵図」を始めとする江戸城での勤仕の様子が記された資料、明治 26 年(1893)頃の「内藤町全図」等が含まれます。

(4)は内藤家以外の個人から寄贈された資料のうち、元々内藤家が所蔵していたとみられる資料で、幕府から内藤家藩主に宛てられた書状です。